インドネシア　景気は緩やかに持ち直し

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所　調査部
研究員　塚田　雄太
E-mail：tsukada.yuta@jri.co.jp

■16 年 4～6 月期は＋5.2%成長

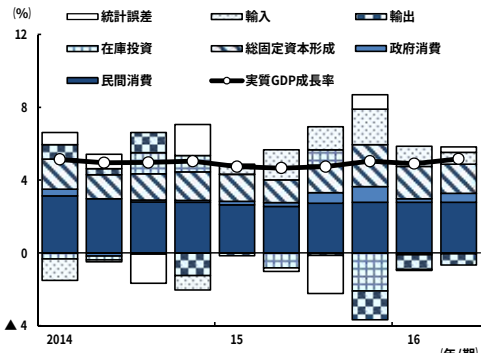
インドネシア景気は緩やかな回復傾向にある。2016 年 4～6 月期の実質 GDP は前年同期比＋5.2%と 1～3 月期（＋4.9%）から加速した（右上図）。

4～6 月期の需要項目別寄与度は、民間消費が＋2.8%ポイント（1～3 月期：＋2.8%ポイント）、政府消費が＋0.5%ポイント（同：＋0.2%ポイント）、総固定資本形成が＋1.6%ポイント（同：＋1.8%ポイント）、在庫投資が▲0.0%ポイント（同：▲0.3%ポイント）、輸出が▲0.6%ポイント（同：▲0.8%ポイント）、輸入が＋0.6%ポイント（同：＋1.1%ポイント）と、民間消費や総固定資本形成の下支えに加え、政府消費の拡大が成長率を押し上げた。

民間消費は、低インフレの持続などを受けた消費者マインドの改善を背景に堅調に推移している。一方、政府消費と総固定資本形成は、インフラ関連プロジェクトが徐々に稼働してきたことが奏功した。

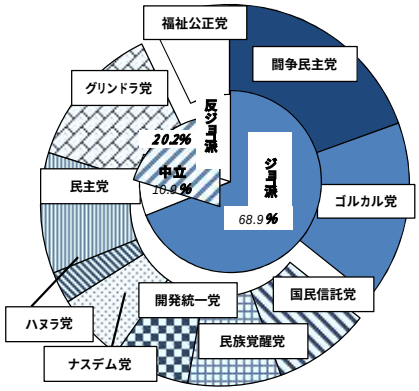
先行きを展望すると、世界景気の回復が緩慢にとどまるなか、外需は低迷を余儀なくされよう。もっとも、内需は、中銀が 16 年上半期に実施した 4 度の利下げや、政策金利指標の見直しによる市場へのより効果的な金融政策の伝達に加え、インフラ関連プロジェクトの本格化などから伸びが加速すると予想される。総じてみれば、年後半以降も景気は緩やかな回復基調をたどると見込まれる。

<実質GDP成長率と需要項目別寄与度>



(出所) 中央統計局を基に日本総研作成

<インドネシア国会の勢力図>



(出所) インドネシア国民評議会、各種報道を基に日本総研作成

■改革推進の環境整うジョコ政権

足元で、ジョコ政権が改革を進めるうえでの環境が大きく改善している。同国国会で最大野党であったゴルカル党は、16 年 5 月 17 日の臨時党大会でジョコ大統領を支持する与党連合への合流を決定した。これにより、与党連合の議席割合は 68.9%と、ジョコ政権発足後で初めて過半数を確保した（右下図）。

こうしたなか、7 月 27 日、ジョコ大統領は 15 年 8 月以来となる内閣改造を実施した。今回の内閣改造の主たる注目点として、①ユドヨノ前政権で財務相ほか主要経済閣僚を歴任し、リーマン・ショック後の同国経済を立て直したスリ・ムルヤ世銀専務理事の財務相への就任、②改革推進派として名高いトマス・レンボン前商業相の投資調整庁長官への就任、③これまで財務相として、燃料補助金制度の撤廃やインフラ整備を重視した予算編成などでジョコ政権の経済改革をけん引してきたバンバン・ブロジョネゴロ氏の国家開発企画庁長官への就任、があげられる。

ジョコ大統領は改革を推進するかつてないチャンスを手に入れたといえよう。このチャンスを生かして、民需を活性化する構造改革を進めていくことができるか否かが、今後の注目点である。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。